

## ブルンジ月報（2019年3月）

### 主な出来事

#### 【内政】

- 25日、ブルンジ大統領の写真に落書きをして拘束されていた3人の生徒が釈放された。

#### 【外政】

- 4日、ブルンジ政府は、国連人権高等弁務官ブルンジ事務所の閉鎖を決定した。
- 17日、AMISOMから撤退するようAUから求められている1,000人のブルンジ兵士のうち400人が帰還した。
- 18日、ブルンジは、第4回持続可能な電子廃棄物マネジメント地域ワークショップを開催した。

#### 【経済】

- 中国の支援により、300の村で衛星テレビの受信が可能となった。

※以下は、明示したものを除き、ブルンジ・オンライン・メディア Iwacu の報道を取りまとめたもの。

#### 【内政】

- 大統領の写真に落書きをして逮捕された生徒の保釈（27日）

25日、カンヤナ法務大臣は、教科書に掲載されているンクルンジザ大統領の写真に落書きをしたために、12日から拘束されていた3人の生徒の釈放が決定したと述べた。法務大臣は、「ブルンジ法廷では、15歳以上が成人と定められているため、今次逮捕となった。」と述べた。

#### 【外政】

- ブルンジ兵士のソマリア撤退問題（4日）

ブルンジ政府は、アフリカ連合ソマリア・ミッション（AMISOM）から1,000人のブルンジ兵を撤退させるよう求めたAUの決議に対し修正を求めた。2月28日、AMISOMは、ソマリアから1,000人のブルンジ兵士の撤兵を予定していたが、400人のみが帰還した。ンタホムブキエ防衛大臣は、AUの決定は不公平であり、政府は言いなりにはならないと述べつつ、決定に抗議する口上書をAUに送ったと述べた。

- OHCHR事務所の閉鎖（5日）

2月28日、国連人権高等弁務官（OHCHR）ブルンジ事務所を閉鎖するとのブルンジ政府の決定が発効した。昨年12月5日、ブルンジ政府は、OHCHRに対して事務所閉鎖を指示した。3月4日のブルンジ政府の声明によると、ブルンジ政府は、ブルンジに

おける人権促進は十分に進展したと判断した。国連システムは、ブルンジ政府に対し、OHCHRブルンジ事務所を閉鎖しても、双方にとって利益のある別の協力形態で、引き続きブルンジにおける人権の促進・保護の利益のためにOHCHRと共に働くよう求めている。

●ブルンジ兵士600人のソマリアからの帰還（17日）

15日、ビエレケ（Floribert BIYEREKE）ブルンジ軍報道官は、1,000人のブルンジ兵士のうち600人が間もなくソマリアから帰還する予定であると述べた。

●第4回持続可能な電子廃棄物マネジメント地域ワークショップの開催（19日）

18日、同ワークショップにおいて、マニラムパ（Donatien MANIRAMPA）電気通信規制ブルンジ事務所局長は、ブルンジは毎年3万トン以上の電子廃棄物を排出していると述べつつ、廃棄物は、適正に管理されなければ環境と健康に大きな被害を与えると述べた。

●EAC域内におけるフランス語使用の普及（21日）

20日、ンタムワナ（Epiphanie Kabushemeye NTAMWANA）外務省多国間関係局長は、EAC域内におけるフランス語の使用を進めていると述べた。EAC担当省は、在ブルンジ・フランス大使館と協力し、EACの事務官に同プロジェクトの草案を提出した。

【経済】

●300の村での衛星放送受信（1日）

在ブルンジ中国大使館の支援により、少なくともブルンジの300の村において衛星放送の受信が可能となった。各村に20台のデコーダと3台のソーラーテレビのセットが配布され、少なくとも6,900人が受益した。同プロジェクトは、2015年12月、習近平中国国家主席が、ヨハネスブルクで開催された中国・アフリカ協力首脳会合で発表した「1万のアフリカの村における衛星放送受信」プロジェクトの一部である。

●ブルンジの5つ星ホテルの軒数（1日）

1日、貿易・産業・観光省は、ブルンジの64軒のホテルのうち3軒が5つ星に認定されたと発表した。3軒はいずれもブジュンブラにある。

（了）